



モルダウの川音が聞こえる…

森と草原を吹きぬける爽やかな風、モルダウの川のざわめき…。
プラハ交響楽団の演奏からは、
ボヘミアの美しい自然の音が聞こえてくる。

ヨーロッパで最も美しい都市のひとつ古都プラハ。“百塔の街”とも呼ばれ、街全体に素晴らしい建物が林立するこの街は、同時に多くの名作曲家、名演奏家を生み出してきたヨーロッパ屈指の音楽の都としても人々に愛されてきました。

この街が世界に誇るオーケストラ、プラハ交響楽団が10度目の待望の来日公演を行います。ドヴォルザークやスメタナの作品に宿るボヘミアの魂を、大輪の花が咲くかのごとく感銘深く響かせるこのオーケストラの比類ない名人芸は、ヨーロッパ、そして世界に冠たる音楽都市のオーケストラが持つ民族の誇りを感じさせずにはられません。

指揮は、今まさに円熟期の極みを迎えた巨匠として楽壇の注目を浴びている、このオーケストラの首席指揮者イルジー・コウト。プログラムは、チェコを代表する名曲として知られる「モルダウ」と「新世界」、そしてわが国を代表するヴァイオリニストの一人として活躍する、千住真理子がメンデルスゾーン協奏曲で共演します。豪華な顔ぶれで贈る、薫り高い名演への期待は高まるばかりです。

イルジー・コウト Jiří Kout (Principal Conductor)

イルジー・コウト(1937年生まれ)は現在最も世界的に知られるチェコ人指揮者の一人である。1965年にブザンソン国際指揮者コンクールの優勝者として注目を集めた。1972年にはプラハの国立劇場で指揮者の地位に就いたが、同時にコウトはその反共産主義的思想のために、絶え間ない圧力の下に置かれた。デュッセルドルフのライン・ドイツ・オペラにおける一連の客演で成功を取めた後、コウトはついに亡命を決意し、デュッセルドルフ・オペラの常任指揮者となった。1990年、ベルリン・ドイツ・オペラの首席指揮者に任命され、さらに1993年にはライプツィヒ・オペラの音楽監督に就任した。

コウトは特にワーグナー、シュトラウス、ヤナーチェクの名指揮者として国際的な名声を獲得しており、世界中のほとんどの有名オペラ・ハウスでこれらの作曲家のオペラを指揮している。2006/2007のコンサート・シーズンからプラハ交響楽団の首席指揮者を務めている。

プラハの聴衆が長年に渡る亡命の後コウトが初めて指揮を振る姿を見たのは、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団とブルックナーの交響曲第8番を演奏した1992年になってのことである。2007年、音楽分野における貢献に対して文化大臣賞を受賞。2007年10月、チェコスロヴァキア建国80周年に際し、チェコ共和国大統領ヴァーツラフ・クラウスより文化芸術分野における国家功労賞のメダルを授与された。

コウトは世界で最も有名なチェコ人指揮者の一人であり、NHK交響楽団への客演でも度々日本を訪れ、N響から全幅の信頼を得ている。



千住真理子 Mariko Senju (Violin)

2歳半よりヴァイオリンを始める。全日本学生音楽コンクール小学生の部全国1位。NHK交響楽団と共演し12歳でデビュー。日本音楽コンクールに最年少15歳で優勝、レウカディア賞受賞。パガニーニ国際コンクールに最年少で入賞。慶応義塾大学卒業後、指揮者故ジュゼッペ・シノーポリに認められ、87年ロンドン、88年ローマデビュー。国内外での活躍はもちろん、文化大使派遣演奏家としてブラジル、チリ、ウルグアイ等で演奏会を行う。また、チャリティーコンサート等、社会活動にも関心を寄せている。

1993年文化庁「芸術作品賞」、1994年度村松賞、1995年モービル音楽賞奨励賞各賞受賞。1999年2月、ニューヨーク・カーネギーホール、ウエリ・リサイタルホールにて、ソロ・リサイタルを開き、大成功を収める。

2002年秋、ストラディヴァリウス「デュランティ」との運命的な出会いを果たし、話題となる。2003年8月にEMIミュージック・ジャパンより移籍第1弾となるCD「カンタービレ」を発売し、高い評価とセールスを記録。2010年はデビュー35周年を迎えた。2012年は、全国でワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団、ミラノ・クラシカ合奏団とツアーを行う。

コンサート活動以外にも、講演会やラジオのパーソナリティを務めるなど、多岐に亘り活躍中。著書は「聞いて、ヴァイオリンの詩」(時事通信社、文藝春秋社文春文庫)「歌って、ヴァイオリンの詩2」母との共著「母と娘の協奏曲」(以上時事通信社)など多数。

千住真理子オフィシャル・ホームページ

<http://www.marikosenju.com/>



プラハ交響楽団 PRAGUE SYMPHONY ORCHESTRA

プラハ交響楽団は1934年の秋、指揮者のルドルフ・ペカーレクによって創立された。彼は、この新しい楽団の活動分野を「フィルム」、「オペラ」、「コンサート」と定義し、その略称であるFOKは同楽団の名称の一部となった。FOKは、チェコスロヴァキア放送の生放送に定期的に出演することによって名を広め、経済的に存立できる団体に成長したが、この活動の主たる推進者として創立以来活躍したのはヴァーツラフ・スメターチェクであった。

スメターチェクは短期間のうちに、同楽団を国内の熾烈な競争に十分に耐えうる大規模な交響楽団に発展させることに成功した。1942年には、首席指揮者に就任し、その立場により30年間にわたって同楽団を率いた。スメターチェクのリーダーシップのもと、FOK交響楽団は高い演奏水準を誇り、国際的な名声を得るオーケストラとなった。

1952年、プラハ市は同楽団に市を代表するオーケストラという地位を与えた。長く使われてきた「FOK」という頭文字を残し、オーケストラの新しい名称は「首都プラハの交響楽団FOK」となった。1957年には、ポーラン

ド、イタリア、オーストリアとドイツを含む初の国外ツアーを行うことによって国際舞台に躍り出た。

スメターチェクが首席指揮者を退いた後、この役を担った、イルジー・ビエロフラーヴェク(1977-89)の仕事は、同楽団の集中的な芸術的成長の観点において重要な時期を印すことになった。2006/2007のコンサート・シーズンからはイルジー・コウトが首席指揮者の地位を担っている。

さらに、同楽団の実力を示す証として挙げられるのは、チェコおよび世界中の作品をレパートリーとしたレコード、ラジオ、およびテレビにおよぶ多様な録音作品である。

プラハ交響楽団はその歴史の中で、多くの優れた指揮者および広範囲のソリストたちと共演している。同楽団は、ヨーロッパ各地と共に、日本と米国にて頻繁に演奏しており、その他にも南米、プエルトリコ、台湾、韓国、トルコ、イスラエルなどの国々を訪れている。



AIR-G' (FM北海道)のクラシック音楽入門ラジオ番組
「朝クラ!」
〈毎週日曜日あさ6:00~6:55放送〉
DJ: 高山秀毅 HIDEKI TAKAYAMA
[mail] asakura@air-g.co.jp